



日常生活活動の分析と 治療的介入

日常生活活動と姿勢制御

誠愛リハビリテーション病院
澁 雅子

講義内容

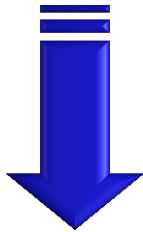
- 日常生活活動をどのように考えるか
- 運動制御と姿勢制御
- バイオメカニクス
- ボバーズ概念
- 日常生活活動の実際

質の高いADL獲得へのアプローチ

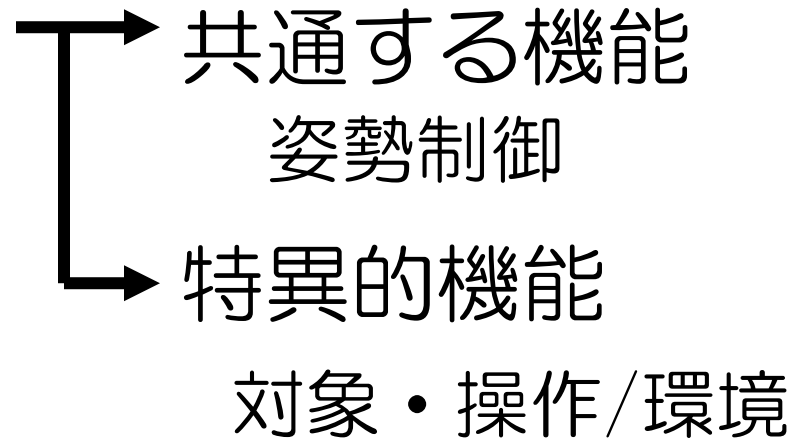
1) 効率的で効果的なADLの追求

- できるADL しているADL ではしていればいいのか？
- できないのはなぜか (WHY) どのようにしているのか (HOW) を徹底的に追求する。

- 各ADL項目の構成要素を考え

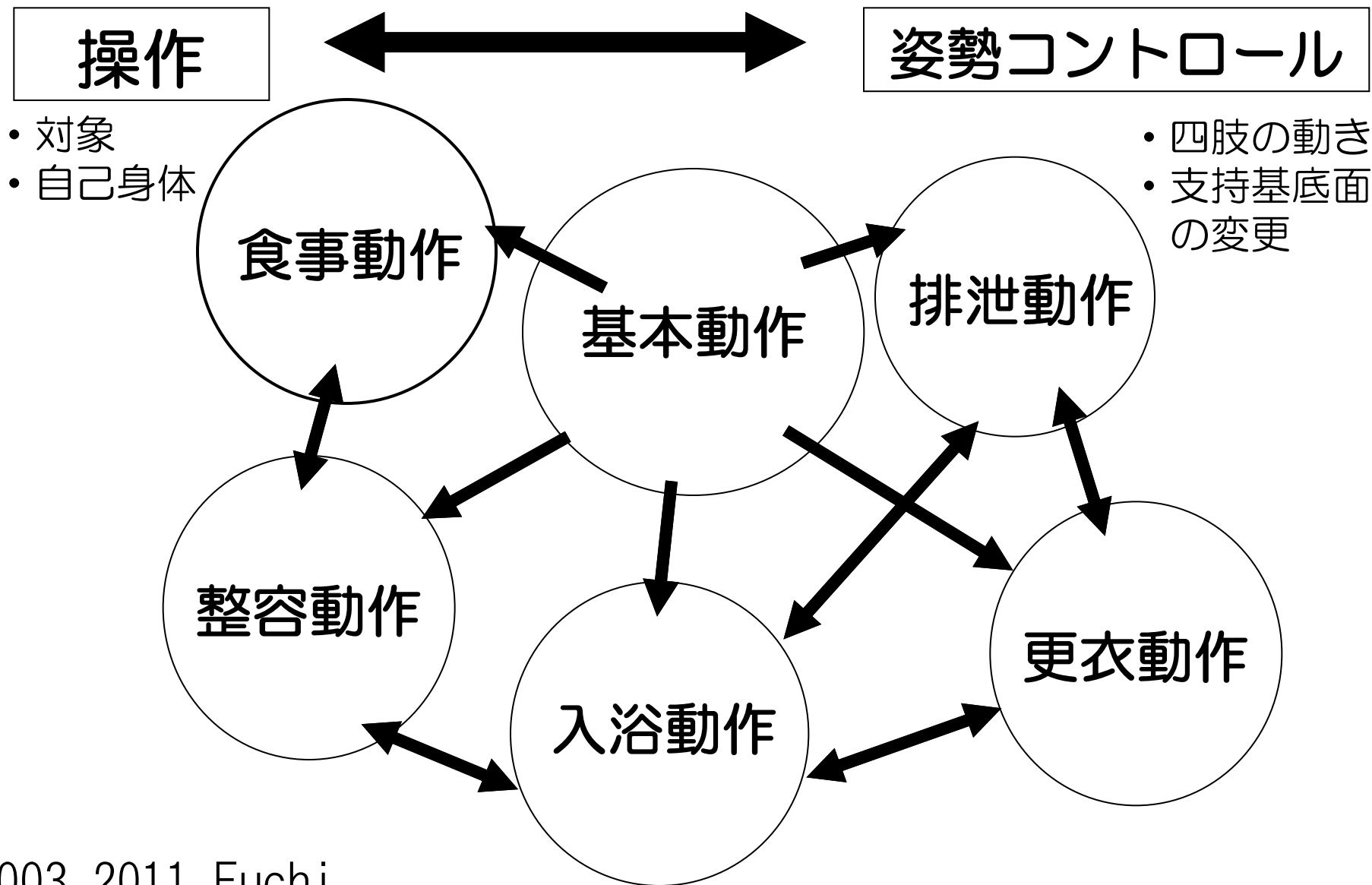


段階的統合



2) 障害された機能を回復させるのにADLを
手段として利用する

ADLにおける共通機能とは



中枢神経疾患患者のADLと高次能機能障害

1. 典型的な高次能機能障害がADLを阻害する
2. ADLの基礎となる構成要素（機能）感覚—運動への高次脳機能障害の影響
3. 損傷後のADL再学習（再獲得）における高次脳機能の影響
 - 障害を持った、以前とは違う自己
 - 以前の自己における運動記憶（ADL）

新しい学習

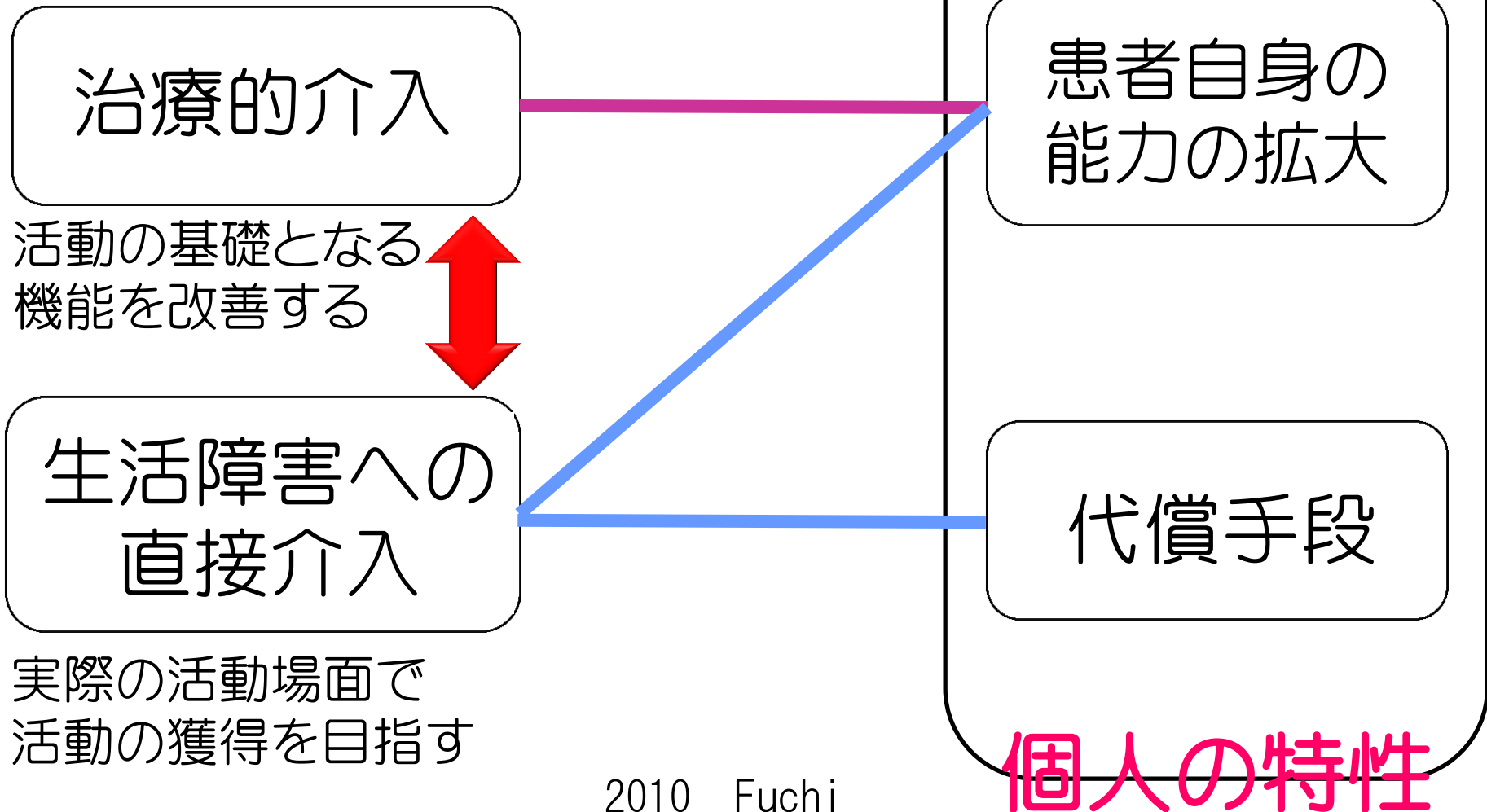
古い記憶の修正（認知・行為）
身体失認・失行

身体図式の再構築・運動（パターン）の学習

個々のおかれた環境の中で


生活障害を改善するために

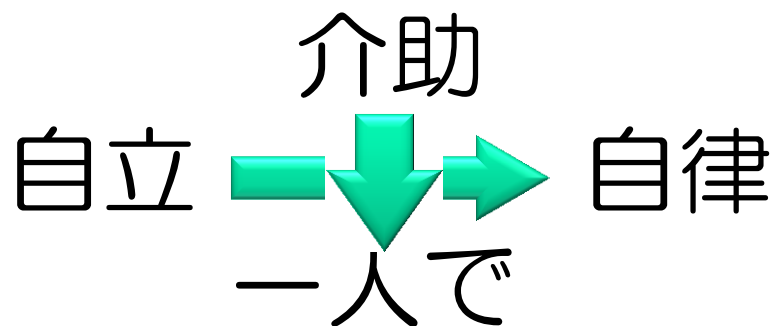
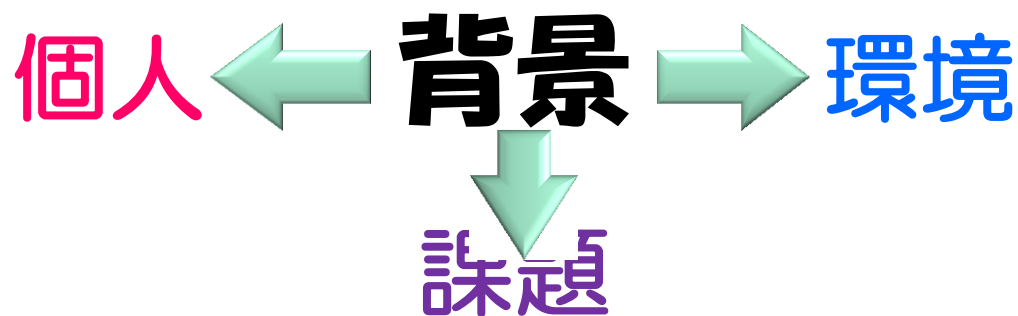
環境と課題



病棟生活の分析とマネージメント

病棟の生活 **すべて** を **実際** にやってみる

なぜか？  どうするか？



チームで、でも
セラピストがプ
ロとしてみんな
を巻き込む

マネージメント

病棟協働

場の共有

情報共有

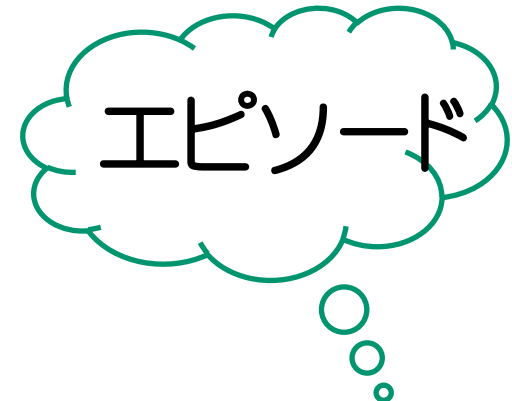
コミュニケーション

リハスタッフ間協働

場の共有

情報共有

人材育成



1. 朝の申し送り
での出来事

2. ST訓練時の
転倒事故